

第3次町田市地域福祉計画
町田市社会福祉協議会 第四次地域福祉活動計画

地区活動計画

2018 年度版



2019年3月



地区活動計画の考え方

地区活動計画2018年度版は、2018年度に実施した地区別懇談会でのご意見をもとに、10地区ごとに今後の方向性と具体的取組を整理し、先進事例もあわせて掲載したものです。

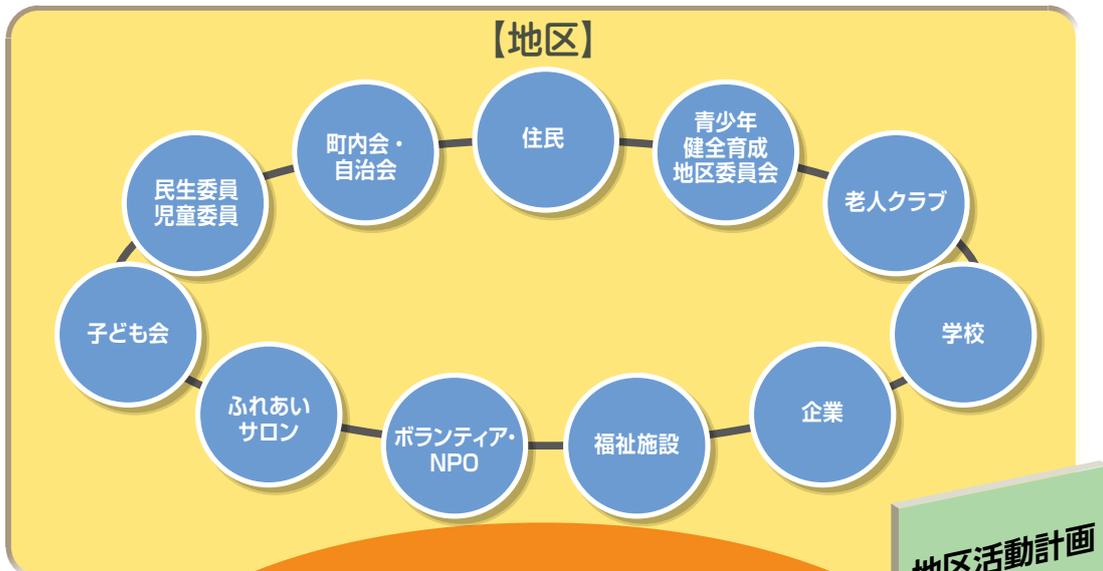
町田市は東西南北に広く、地理的な条件、住宅事情、活動している団体の数や種類、住民の年齢層や、意識など、地域による違いが大きいので、地域特有のさまざまな課題やニーズを抱えていることが特徴と言えます。

こうした状況の中で、町田市の「第3次町田市地域福祉計画」と町田市社会福祉協議会の「第四次町田市地域福祉活動計画」の基本理念を実現するためには、両者が連携して計画を推進し

ていく必要があります。さらに、住民自らが地域のことを考え、互いに協力し合いながら、それぞれの「地域福祉」について考えていくことが求められています。

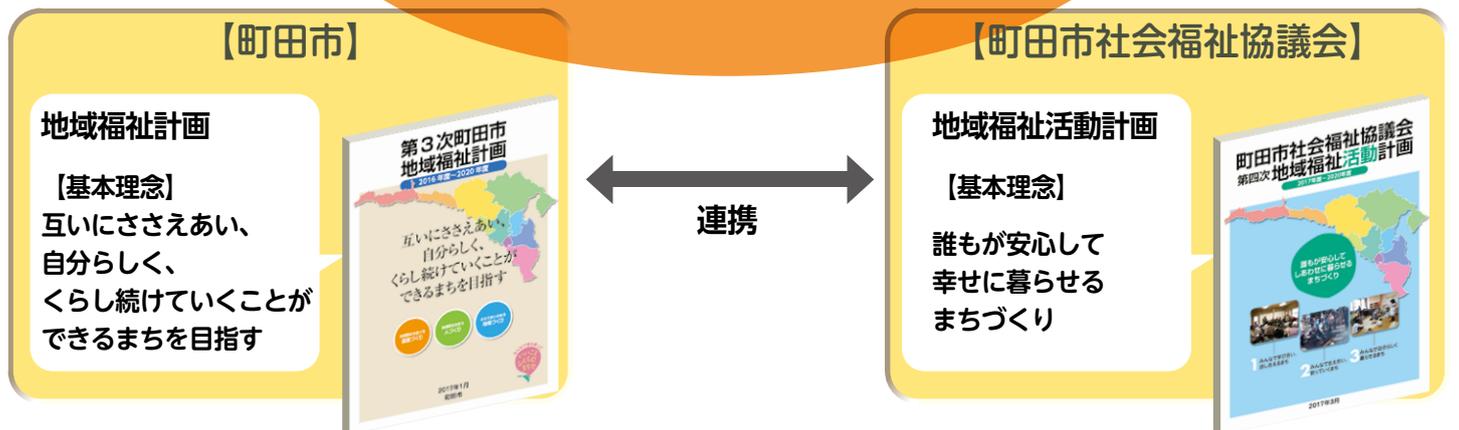
そのため、昨年度に引き続き、市内10地区で地区別懇談会を社会福祉協議会と市の主催（地区によっては関係機関・団体と共催・後援）で実施しました。

懇談会の実施体制



地区との協働による懇談会の開催

地区活動計画



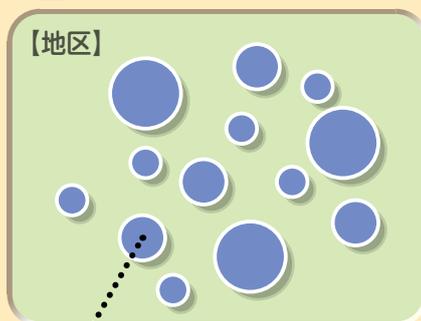
地区別懇談会の開催概要

地区名	日時	場所	参加者数
南	2018年 10月18日(木) 14:00~16:00	南市民センター ホール	27人
町田第一	2018年 10月24日(水) 19:00~21:00	町田市民文学館ことばらんど 大会議室	20人
町田第二	2018年 11月4日(日) 10:00~12:00	町田市庁舎2階市民協働おうえんルーム	36人
小山	2018年 11月18日(日) 14:00~16:00	小山市民センター 第1会議室	19人
玉川学園・南大谷	2018年 11月25日(日) 14:00~16:00	NPO法人 桜実会 デイルーム	27人
高ヶ坂・成瀬	2018年 11月29日(木) 19:00~21:00	成瀬コミュニティセンター ホール	42人
忠生	2018年 12月4日(火) 14:00~16:00	忠生市民センター ホール	48人
相原	2018年 12月10日(月) 18:30~20:30	堺市民センター ホール	42人
鶴川	2018年 12月12日(水) 18:30~20:30	鶴川市民センター ホール	56人
木曽	2018年 12月17日(月) 13:30~15:30	教育センター2号館 3階会議室	45人
計			362人

なぜ地区別懇談会を開催するのか？

地域の福祉課題の把握や解決に向けて取り組むための多様な主体（人・団体・法人）の連携体制づくりに向け、地区別懇談会を開催しています。

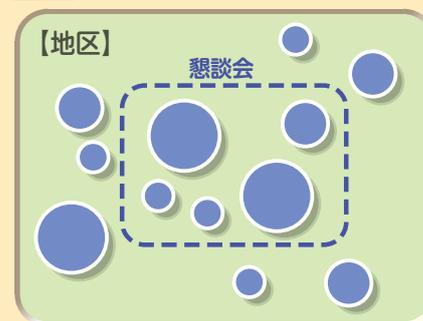
1 地域に多様な主体がいる状況



多様な主体の例

- ・住民
- ・民生委員・児童委員
- ・町内会・自治会
- ・老人クラブ
- ・ボランティア団体、NPO法人
- ・ふれあいサロン・子育てサロン
- ・社会福祉法人、福祉施設
- ・保育園、幼稚園、学童保育クラブ
- ・当事者会・家族会
- ・小学校・中学校、PTA
- ・高校・大学
- ・商店・企業 等

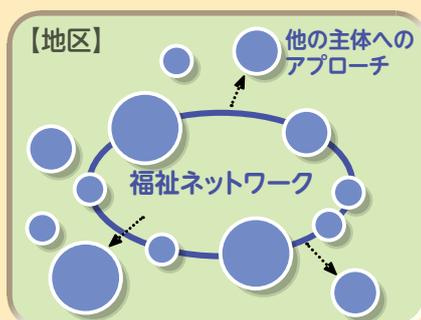
2 懇談会をととした情報共有・意識啓発、課題整理



継続的に懇談会を開催しながら、地域で活動できる人材の育成や地域の課題解決への取組を検討します。

地区別懇談会に多様な主体が参加することで、互いに情報共有し、意識啓発をすすめ、連携をとりながら、地域の課題を整理します。

4 地域課題解決のための福祉ネットワークづくり



多様な主体で構成される福祉ネットワークが形成され、地区の情報や社会資源を共有し、地域課題に対するよりよい解決方法を考えていく場となっていきます。また、構成メンバー間で相互に意識啓発が行われ、人材が育成されていくことを期待します。

3 課題解決を目的とした懇談会の開催



10地区の概要 <目次>

町内会・自治会連合会の地区連合会のエリアを基本とした10地区をご紹介します。

※人口は2018年10月1日現在



薬師池の桜

1 相原地区 ⇨ p.6

人口：15,098人（14歳以下の割合：11.3%、65歳以上の割合：30.2%）

<特徴>

- 大半が緑地として保存されている自然豊かな地域である。
- 自治会加入率が60%を超えている。
- 65歳以上の人口の割合、要介護認定率、人口に占める障がい者の割合が市平均よりいずれも高い。



鶴見川源流の泉

2 小山地区 ⇨ p.8

人口：30,147人（14歳以下の割合：18.8%、65歳以上の割合：16.6%）

<特徴>

- 歴史ある社寺や郷土芸能、豊かな自然が残る一方で、近年の整備で子育て世代を中心に若い世代が定住し、年少人口の割合が10地区の中で一番高い。
- 小山町と小山ヶ丘で、年齢構成や居住年数等の差がある。
- 高低差が激しく、高齢者等にとっては地区内での移動が困難な場合がある。

3 忠生地区 ⇨ p.10

人口：53,696人（14歳以下の割合：13.0%、65歳以上の割合：29.3%）

<特徴>

- 北部は多摩丘陵の自然が広がっており、公園や農地など、都市圏にありながらも自然豊かな環境が維持されている。
- 子育て関係と、高齢者・障がい者関係施設が充実している。また、高校が4校、大学が1校ある。
- 65歳以上人口の割合は市平均より上回っている一方で、要介護認定率は市平均を下回っている。



小山田桜台団地

4 木曽地区 ⇨ p.12

人口：23,422人（14歳以下の割合：12.1%、65歳以上の割合：30.6%）

<特徴>

- 境川沿いの散策路を身近に楽しむことができ、自然と共に暮らすことができる地域である。
- 団地が人口の半数以上を占め、10地区の中で高齢化が一番進んでいる。
- 65歳以上人口の割合が市平均を上回る一方、要介護認定率は市平均を下回っている。

5 鶴川地区 ➡ p.14

人口：92,144人（14歳以下の割合：12.6%、65歳以上の割合：26.3%）

<特徴>

- 自然と調和した閑静な住宅地が広がっている。また、歴史・文化資源が多く残っており、文化の交流の核となっている。
- 10地区の中で面積が最大であり、鶴川地区の中でも場所によって、特徴が大きく異なる。
- 高齢者・障がい者施設だけでなく、教育施設も充実しており、高校が3校、大学が3校、特別支援学校が2校ある。



まちだリス園

6 町田第二地区 ➡ p.16

人口：53,254人（14歳以下の割合：10.4%、65歳以上の割合：29.3%）

<特徴>

- 町田駅周辺は市街地としてにぎわう一方、落ち着いた住宅地も広がっている。
- 75歳以上人口の割合、要介護認定率、障がい者数の割合いずれも市平均より高くなっている。
- アパートやマンションが多く、町内会・自治会への加入率が低い。

7 玉川学園・南大谷地区 ➡ p.18

人口：30,784人（14歳以下の割合：12.1%、65歳以上の割合：27.6%）

<特徴>

- 地域のほとんどが丘陵地の中にあり、起伏豊かな地域である。
- 住民主体の活動団体が多く、2010年に地区社協が設立されている。
- 学園都市として高校が1校、大学が2校など教育関連施設が多いが、障がい者関係施設は少ない。

8 高ヶ坂・成瀬地区 ➡ p.20

人口：44,012人（14歳以下の割合：12.5%、65歳以上の割合：27.7%）

<特徴>

- 土地区画整理事業による宅地化が進み、緑が多く落ち着いた住宅地である。
- 成瀬台地区は65歳以上人口の割合が多い。
- 障がい者・福祉関係施設が充実している。ふれあいサロンも多い。

9 町田第一地区 ➡ p.22

人口：14,352人（14歳以下の割合：9.2%、65歳以上の割合：19.7%）

<特徴>

- 町田駅周辺には大型店舗と商店街があり、にぎわいの拠点となっている一方で、芹ヶ谷公園や境川などの豊かな自然も残されている。
- 生産人口の割合が高く、その他の世代が少ない。
- 公共施設は多いが、高齢者施設、障がい者関係施設は少ない。

10 南地区 ➡ p.24

人口：71,680人（14歳以下の割合：13.0%、65歳以上の割合：25.6%）

<特徴>

- 南町田駅周辺は大型商業施設を中心に、市外からも人が集まるにぎわいの場となっている。
- 南町田では2014年に地区社協が設立されている。
- 保育所・幼稚園等の子育て関係施設や、ふれあいサロンが充実している。



町田駅前



1

テーマ

高齢者の方が地域で暮らし続けられるまちづくり

～地域住民が得意なことを持ち寄り、支え合しくみづくり～ (相原人材BANKの設立に向けて)

2018年度の懇談会で話されたこと

できること・得意なことを活かして、地域で支え合う

2018年度は、助け合いについて理解を深めていただくために、はじめにカードを使ったゲームを行いました。その後の話し合いでは、ゲームを受けて多様な「地域の支え合いのために、自分ができること」の意見が出ました。



地域でできる住民同士の助け合い活動

<p>コミュニケーション・趣味活動の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 家事支援 買い物支援 掃除等 ペットの散歩・預かり 日々のちょっとした手伝い 除雪 	<p>コミュニケーション・趣味活動の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 家電 庭仕事、家庭菜園 家具の移動 包丁研ぎ 障子張り・修理 	<p>コミュニケーション・趣味活動の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション 趣味活動 アウトドア活動の支援 	<p>外出・移動支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 移動支援 通院・受診の支援
<p>子どもに関する支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもへの多様な体験の提供 子どもの迎え・世話 子どもに勉強を教える 子どもの見守り 子ども食堂 	<p>高齢者に関する支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者との交流・見守り 	<p>その他専門的な支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護・介助 事務作業 パソコンでの作業 相談 お金の管理 その他の支援 	
<p>地域・地域活動の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> イベント・行事の手伝い 地域ニーズの把握 マッチング・グループづくり 健康づくり活動 日頃の巡回 掃除等 			

今後の方向性と具体的取組



- 相原人材BANKを立ち上げる
- ネットワーク（グループ）づくり

- 相原人材BANKの立ち上げ
- 相原人材BANKでのネットワークづくり

- 相原人材BANKの立ち上げに向けて、運営団体や方法、拠点等の詳細について検討する
- 地区別懇談会を通じて相原人材BANKの周知を行う

「愛のあるあい原町に」 をモットーに 地域のつながりづくり

●堺第1高齢者支援センター

活動場所 町田市相原町2373-1
(老人保健施設サンシルバー町田1階)

連絡先 TEL : 042-770-2558 FAX : 042-774-1847

相原地区の地区別懇談会では、高齢者支援センターの活動内容や役割について、皆様に分かりやすくお伝えできるように、生活支援コーディネーター2人による寸劇をしました。

高齢者支援センターは、地域のご高齢の皆さまを対象とした、総合相談窓口です。さまざまなご相談に対応できるように専門スタッフ（主任介護支援専門員・社会福祉士・看護師・介護支援専門員）が関係機関と協力して支援を行っています。



地区別懇談会での寸劇の様子

高齢者支援センターに配置されている 専門のスタッフの役割

地域介護予防推進員

- ・要介護状態にならないための介護予防教室開催
- ・相原町の地域状況を把握しながら講座提案または地域援助
- ・介護予防サポーター発掘と活動支援

生活支援コーディネーター

- ・高齢者の居場所づくり、地域づくり
- ・ちょこっとお手伝いなどの生活支援団体や活動団体等立ち上げの手伝い
- ・活動団体等の社会資源ガイドブック作成

見守り相談員

- ・高齢者世帯の見守り
- ・見守りネットワークの支援
- ・新たな見守りネットワーク開発に向けての実態調査

2018年5月からはじまった『あんしんカフェ*』（認知症カフェ）についても紹介しました（写真）。また、その他高齢者支援センターでは、『もの忘れ相談』、『心理士相談』、『認知症初期集中支援チーム』による認知症や閉じこもり高齢者の早期発見、『家族介護者交流会』、『介護者の語らいの会』など、さまざまな活動を行っています。

『愛のあるあい原町に』をモットーに、いつまでも自分らしく暮らせる地域づくり、地域のつながりづくりを、皆様と一緒に考えていきたいと思っています。



『あんしんカフェ』の様子

※あんしんカフェ

町田市では、認知症の方やその家族、支援者、地域住民などが気軽に集まって交流や情報交換する場として、『Dカフェ』（市内の認知症カフェの総称）を開催しています。「あんしんカフェ」は、相原あんしん相談室が開催する認知症カフェです。



愛のあるあい原町に



2

テーマ 多世代交流の場づくり ～子どもが輝けるまちづくり～

子どもセンターイベントでのヒアリング

2018年度の地区別懇談会に先駆け、「子どもセンターぱお」が主催する親子向けイベント「ぱわぱふたいむ」の参加者に「地域にあると良い子育て支援」をヒアリングしたところ、右記のような回答がありました。



ヒアリングの様子



ヒアリング結果

交流

- ・子ども同士、親同士の交流の場がもっとほしい。
- ・同じ年齢（月齢）の子どもで集まれるイベント。
- ・ママ友づくりの場がほしい。
- ・ボランティアさん、ご年配の方、地域の方と一緒に遊べるイベント。
- ・町田の方まで行かなくて済むように、中間地点にももっと交流の場がほしい。
- ・季節ごとのイベント、行事。
- ・どのような人、どれくらいの規模など詳しい内容が知りたい。

あずかり

- ・気軽に預けられる場所（1時間くらいなど）。
- ・子どもを見てもらえて、ママ同士で話せる時間があるといい。
- ・イベントや交流する時に、子どもたちの面倒を見てくれると助かる。
- ・子育て経験のある年配の方に預けられたら良い。
- ・仕事復帰後のリフレッシュ休暇で、預かってもらえる場所があると良い。

情報

- ・一括で情報が分かるもの。
- ・マンションの回覧板のような、自然と目につくような方法だと情報取得も楽。
- ・LINE経由でイベントの情報発信。
- ・地域の活動団体や取組みなど使える情報が見れるものがあると良い。
- ・保育園の空き情報や一時預かりの空き情報。

相談

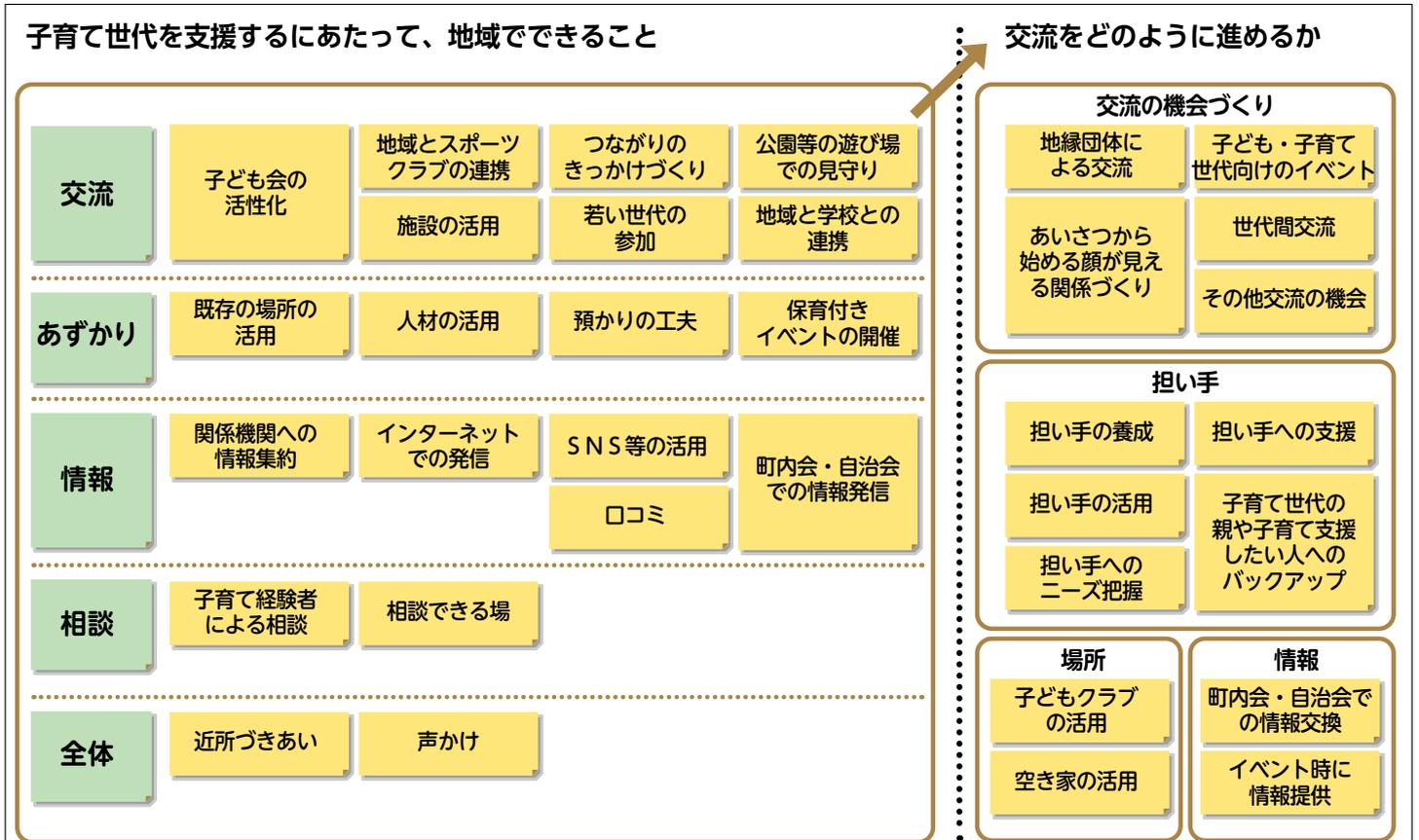
- ・子どもの親相談がもっとできると良い。
- ・ママ友同士で相談できる場があると良い。
- ・子どもを連れて相談に行くのは大変。

子育て中の皆さまの集まりにお邪魔をして、日頃思っていることを「ひざを交えながら」お伺いしました。

この“思い”を地区別懇談会に持っていきました。たくさんのご意見、ご協力ありがとうございました。

子育て世代の支援のために、地域における交流の 機会づくり、担い手の確保・養成等を行う！

2018年度は、事前に行った子どもセンターイベントでのヒアリングを参考に、話し合いを行いました。はじめに子育て世代を支援するための「交流」「あずかり」「情報」「相談」ごとに地域でできることのアイディアを出していただきました、次に、「交流」の進め方を深めて話し合っていました。



小山・小山ヶ丘地区
ネットワーク協議会 (ONW協議会)
のご意見

- 子育て世代のみなさんの声がわかり、その声に応えていける地域にしたい。
- 子育て世代の参加がなかったのが残念であった。
- 現状と課題について、話し合ったことを具体化できるよう協力していく。

今後の方向性と具体的取組

地域で
できそうな
こと

方向性

具体的
取組

- 子育て世代との交流の機会づくり
- 積極的な情報提供

- 地域住民と子育て世代との交流
- 情報提供の場を広げる

- 地区別懇談会を使った地域住民と子育て世代との交流と顔の見えるつながりをつくる
- 「子どもクラブ」にて異世代交流についての検討を行う
- 子育て世代が多い地域へのSNS発信等

グループごとの話し合い
と発表の様子





誰もが気軽に集える地域の居場所づくりについて

2018年度 地区別懇談会の開催にあたって

2018年度の地区別懇談会を開催するにあたり、2017年度の地区別懇談会でいただいた意見から課題を整理し、それぞれの課題に関係する団体や関係機関を整理しました。

テーマ：誰もが気軽に集える地域の居場所づくりについて

誰が集うのか？

- 元気な高齢者
- 障がいのある方
- 支援の必要な高齢者
- 地域と接点がない方、知り合いがなかなかできない方
- 子育て中の親子
- 地域の有識者
- 小中学生
- 介護している方、障がいのある方を支援できる方
- 現役世代
- 同じ趣味を持つ方 等

気軽に集える居場所の条件とは？

- 自宅から徒歩圏内
- 自由に使うことができる
- 空き家や既存施設等の地域資源を活用
- 気軽に相談ができる
- 安心・安全
- 自分の役割がある
- 思いをかたちにできる
- バリアフリー化されている
- 子どもも高齢者も交流ができる
- イベントをやっている
- 地域の情報を得られる 等

課題

居場所として利用できる地域資源の整理

居場所として利用できる地域資源の発掘

地域住民が参加する居場所の検討会の設置

居場所を運営する担い手の確保

高齢

- 地域資源の整理・発掘

障がい

- 地域資源の整理

子ども・子育て

- 地域資源の整理

共通

- 地域資源の整理・発掘
- 担い手の確保

関係団体・機関

- 高齢者支援センター
- 介護保険施設
- グループホーム
- 老人ホーム
- 介護保険サービス提供事業所 等

- 障がい者支援センター
- 障がい福祉サービス事業所 等

- 子育て支援センター
- 子どもセンター
- 保育園・幼稚園・認定こども園等
- 小学校・中学校
- 学童保育クラブ
- 高校・大学
- 子育て支援事業所
- 子育てサロン 等

- 町内会・自治会
- 地域活動団体
- NPO法人
- ふれあいサロン
- 社会福祉協議会
- 市民センター
- コミュニティセンター
- 企業、商店 等

気軽に集える身近な居場所をつくるために、 人・場所・情報・しくみの課題に取り組む！

2017年度の地区別懇談会結果を受け、居場所づくりについて、より深く話し合うため、2018年度は忠生第1、忠生第2高齢者支援センターと共催しました。

地区別懇談会のはじめに、高齢者支援センターの生活支援コーディネーターの方が作成した忠生地区の集いの場マップの紹介があり、話し合いや参加者アンケートで、集いの場以外の地域資源を整理したマップを作りたいという意見が出ました。

① 自分の所属団体で開催している居場所 または欲しい居場所

高齢者	
現在	希望
<ul style="list-style-type: none"> 高齢者支援センターの講座等 ふれあいサロン、町トレ 老人会・老人クラブ 趣味活動 	<ul style="list-style-type: none"> あんしん相談室のイベント・講座 地域で開催する講座 認知症カフェ レクリエーションの場
共通	
現在	希望
<ul style="list-style-type: none"> 町内会の集会所、会館やイベント ふれあいサロン 神社 公園 青少年施設ひなた村 大学の地域への教室 保育園との交流会 団地での活動 NPO法人による場づくり イベント 	<p>【新たな場所の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> フォレスト常盤 ・ 自宅開放の活用 日中の集会所の活用 遊休農地の活用 <p>【希望する場所の条件】</p> <ul style="list-style-type: none"> 誰でも自由にふらっと来れる 行けば誰かに会える 子どもと高齢者が一緒に集まれる 若い人が継続的に参加できる 体を動かすことができる 新しい情報が得られる
子ども	
現在	希望
<ul style="list-style-type: none"> 子どもセンター 子育てひろば 子育てサロン 保育園オープンスペース まちとも 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な子どもの遊び場 地域の人が遊びを教えてくれる場 4年生以上の居場所 子ども食堂
障がい者	
希望	
<ul style="list-style-type: none"> 車いすでもスポーツができる場所 	

② ①を開催しているの課題・開催するにあたっての課題

人の課題		
担い手の確保・育成	活動者・活動側の課題	日頃からのつながりづくり
参加者の意識	参加者の確保	顔見知りの不足
場所の課題		情報の課題
場の確保		周知・広報・集客の充実
子どもの集いの場づくり		活動者・地域での情報共有
		ニーズ把握
しくみ・その他の課題		
リスク管理	負担の軽減	参加しやすいしくみ
交通手段の不足	お金の問題	町内会・自治会の課題
個人情報の取扱い	連携体制	
	バリアフリー	

地域の居場所づくりについて、まず現在の居場所と希望する居場所について意見を出し合い、その後、居場所をつくるにあたっての課題を考えました。課題は大きく分けて「人」、「場所」、「情報」、「しくみ・その他」についての4つがあり、それぞれ課題解決に向けた取組が検討されました。

今後の方向性と具体的取組

地域で
できそうな
こと

方向性

具体的
取組

- 地域資源マップづくり
- 地域内での情報共有
- 場づくり
- ネットワークづくり



グループごとの話し合いの様子

- 地域資源マップの作成



話し合い結果の共有の様子

- 社会福祉協議会

忠生第1、2高齢者支援センター、障がい者支援センター、地域子育て支援センター、社会福祉協議会が資源を持ち寄り、地域資源マップを作成する
関係機関のネットワーク（つながり）の構築

- 高齢者支援センター

各地域での小規模な地域支え合い会議を開催し、地域のネットワークづくりを行う



テーマ

安心して暮らせるまちづくり

～見守り、声かけできる地域づくりを目指して～

2018年度の
懇談会で
話されたこと

顔の見える関係づくりや交流の場で つながりをつくる

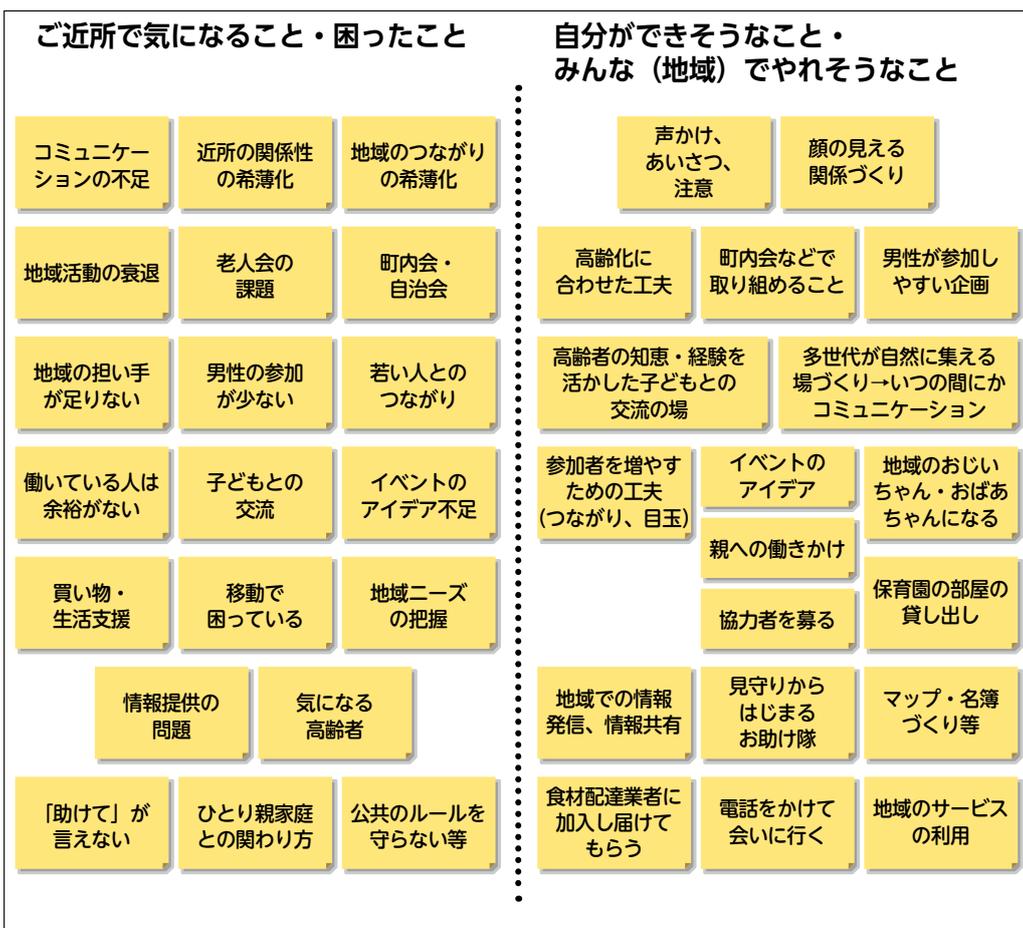
2018年度は、助け合いについて理解を深めていただくためにはじめにカードを使ったゲームを行いました。

その上で自分や地域でできそうなことを話し合い、さまざまな意見が出ました。

また、参加者アンケートでは、困りごとや活動で工夫していることを具体的に共有でき、参考になったという声が多く聞かれました。



グループごとでのゲームの様子



今後の方向性と具体的取組

地域で
できそうな
こと

方向性

具体的
取組

- 見守りからはじまるお助け隊
- 顔の見える関係づくり
- 多世代が自然に集える場づくり

- 日常生活支援（お助け隊）団体の立ち上げ
- 多世代交流の場づくり

- 高齢者の知恵・経験を活かした交流の場（イベント）を開催し、継続・定着させる
- 見守りの中から日常生活支援活動（御用聞き）へつなげる

地域のために 新しい発想で取り組みたい

<境川団地見守り支援ネットワークによる懇談会での発表より>

今井さん：私はたいしたことしてないんです。見守り活動をすることで、かえって「元気か？」と向こうから声を掛けてくれる。救急車が来るとどこなんだろう？と気にかかるようになり、なんでもないとほっとします。

佐藤さん：きっかけはポストのチラシを見て「仕事も終わりつまらない人生なら、この見守り活動によって楽しく過ごしたい」と思いました。見守り対象者の散歩の時間に合わせて散歩した時、摘んでいた花を頂きました。それを押し花にしてお渡ししたら「ありがとう。嬉しいよ。」と、こちらこそ感謝でした。

植松さん：募集のチラシを見て、戸惑いもありましたが一歩を踏み出してみました。皆さんのお話を参考に努力してみようと活動が始まりました。ぶらりと見守りをしていた時、転んで手首をケガした方がいらっしゃいました。救急処置をして、息子を呼び、病院へ連れていきました。その方は今ではまた普通に生活していらっしゃいます。



見守り訪問の様子

ちょっとした気がかり を受け止める場

日頃の暮らしの中で、ちょっとした気持ちへの引っかかりはありませんか？

どこがどうということはないけれど、気分が悪いとか、介護のこと等 気になるので聞いてみようかな、昨日から誰とも話をしていないので話をしたい 子どものことを相談したい・・・

まちの保健室は、そんなちょっとした気がかりを受け止めてくれる人がいつもいます。



「まちの保健室」松本さんのグループワークの様子

●境川団地見守り支援ネットワーク



研修会の様子

今後の見守り活動や 木曽地区について

境川団地自治会長 竹島さんより

これまで見守り活動は一定の形で推移してきましたが、団地の高齢者の状況も日々変わっていますので、このあたりで住民に対して何か新しいアプローチがあってもいいのではと思います。そのことによって、新たに見守りをしてほしいと希望したり、見守り活動に協力してもよいという住民も出てくるのではと思います。木曽地区で言えば、年齢を問わず子どもや若年層も含めて、新しい発想で何か地域のために取り組めたらと考えています。

●まちの保健室

活動場所 町田市木曽東1-24-20

NPO法人ひまわりの会 まちの保健室

連絡先 TEL : 042-732-3451 FAX : 042-732-3785

今後の「まちの保健室」

学校に保健室があるように、この町にも「地域の保健室」があればいいな～という声から生まれた場所です。毎日、誰かが立ち寄っています。1人で飲むお茶もおいしいけれど、誰かと飲むお茶もまた、一味違います。

これからは、「1人にならない、させない地域」を目指して、いつもドアを開けてみなさんをお待ちしております。



テーマ

大好き鶴川！ みんなが交流できるまちづくり

こんな意見
が 出ました

2017年度の懇談会

幸せに暮らし続けるために地域にあるとよいこと

- 近所づきあいを持つ
- 新しい住民との交流
- 人材発掘
- 子育て支援
- 誰とでも気軽に話せる
雰囲気
- 困った時に相談できる
場所
- 地域住民が気軽に
集まれるスペース
- 地域をつなぐための
コーディネーター
- 地区別懇談会のような
話し合いの場
- 男性の社会貢献
- 認知症カフェ
- 学生のパワーの活用
- 労働の場
- 車いすで入れるお店
- 情報のバリアフリー化
- 市民農園
- 災害時に助け合える
コミュニティ
- 交通の利便性
- 行事への参加促進
- 趣味を発揮できる場

2018年度 鶴川地区 地区別懇談会

2017年度に
出たご意見
から

地域の活動を知る！活動へ参加する！
つながる！を目的に「大好き鶴川！
みんなが交流できるまちづくり」をテーマ
としてみんなで「交流」について話し
合いました！



1 事例発表をして
いただいた団体に
ヒアリングを
行いました!!

事例発表をしていただいた団体

- ① 和光台地域支え合い連絡会
- ② 鶴川団地地域支え合い連絡会
- ③ 障がい者支援センター
- ④ 地域子育て支援センター
- ⑤ 鶴川地区協議会
- ⑥ 小さな一歩 電話相談室

2 鶴川地域のお住まいの方に
アンケートを行いました!!

【事例発表団体へのヒアリング結果】

地区別懇談会に参加してみた感想

地区別懇談会に参加して感じたこと

- 前回（2017年度開催）の地区別懇談会は、それぞれ思っていることがバラバラだったが、今回の話し合いはスムーズに進み、同じ目標に向かっている感じがした。
- テーマに沿ってできていた。
- 普段関わる機会がない団体や住民の方と知り合いになれた。
- 自分達の活動を知ってもらうことで、協力してくれる仲間ができた。
- 活動紹介シートに付箋を貼ってもらい、つながりができた。

地区別懇談会に参加して気づいたこと

- 和光台地域支え合い連絡会も何かの実績を作りたいと思った。
- 顔見知りネットワーク（つながり）にして、何かしてみたい。
- 鶴川地域が一丸となり、鶴川の課題は鶴川住民で解決していくしくみづくりと「鶴川地区別計画」の策定と地区別懇談会を鶴川住民主体で開催する。



テーマ 若い世代や男性が 地域活動に興味を持ち、 活動に参加できるきっかけづくり

2018年度の
懇談会で
話されたこと

多様なイベント、気軽に参加できるしくみづくりから、
若い世代や男性の担い手を増やす!

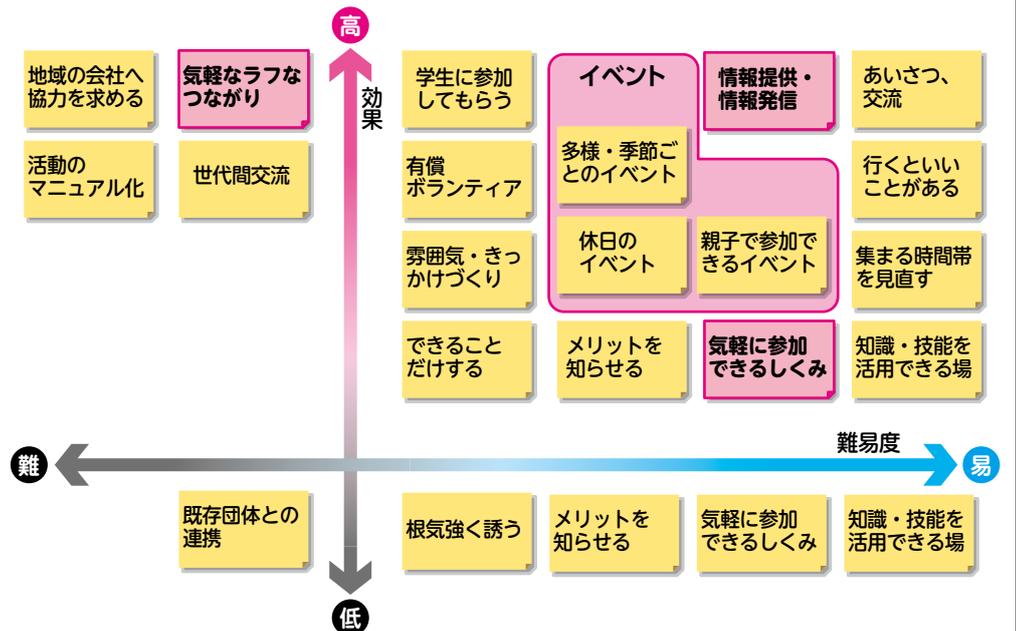
2018年度は、はじめに各グループに1人ずつ現役世代の男性に入ってもらい、地域活動に参加が難しい理由と参加しやすくなる条件を話し合っていました。

参加者アンケートでは、話し合いの中で若い世代へのアプローチ方法や、情報発信について参考になったという意見がありました。



グループごとの話し合いの様子

若い世代や男性が地域活動に参加しやすくなるために地域でできること



男性が地域活動に参加しやすくなるためには「好きな時に参加できる」「途中から参加、退席できる」などの気軽に参加できるしくみが必要ではないかという意見が出ました。また、ほとんどの人が携帯電話を所有していることからSNSを活用した情報提供・情報発信についての意見もいただきました。

今後の方向性と具体的取組

地域で
できそうな
こと

- 若い世代や男性の参加につなげていくために、気軽に参加できるイベントなどで参加のきっかけづくり
- 初めての人でも気軽に参加できる雰囲気づくり

方向性

- 無理なく気軽に地域の活動に参加ができるよう、ラフなつながりづくり



発表の様子

具体的
取組

- 地域のイベントなどの情報をSNSで発信し、気軽に情報入手できるようにする
- 若い世代や男性のつながりづくり
- 町田第二地区を小エリアに分けた住民懇談会の実施

「できる時に、 できる事を、 できる人が」を モットーに活動

●町田市立町田第一小学校お父さんネットワーク

連絡先 Mail : machida.fanet@gmail.com

休日家でゴロゴロ寝てるお父さんに、子どもと遊ぶ場所作りとして2008年にグリーンカーテン・カブトムシハウスなど開始しました。現在のメンバーは18名、8割が40歳前後の会社員で「できる時に、できる事を、できる人が」をモットーに活動しています。

親子で参加できて、子どもにとってはいろいろな経験ができる内容を、お父さんにとっては地域に関わるきっかけとなるイベントを年間8回程度実施しています。現在実施している主なイベントは、防災宿泊体験「学校に泊まる」のほか、「水てっぽう」や「流しそうめん」などお遊びイベント、棒サッカーや車いす体験、ペットボトルロケットなどです。このほかにも、やってみたいイベントがあれば、ノウハウをもった近隣おやじの会や地域団体に聞きに行き、実施しています。

懇談会実施後の団体の動き

懇談会前にも子どもセンターまあちとのイベントを何度か実施しています。今後は町田第一小学校以外の地域の人も対象として、活動の幅を広める動きを模索しています。



みんなでおいしく
流しそうめん



ペットボトルロケット
発射！



棒サッカーにみんな夢中！



ヤキイモイベント～上手に焼けたかな？



テーマ

ふるさと玉川学園・南大谷

～隣近所とのつながりと支え合いを考える～

2018年度の
懇談会で
話されたこと

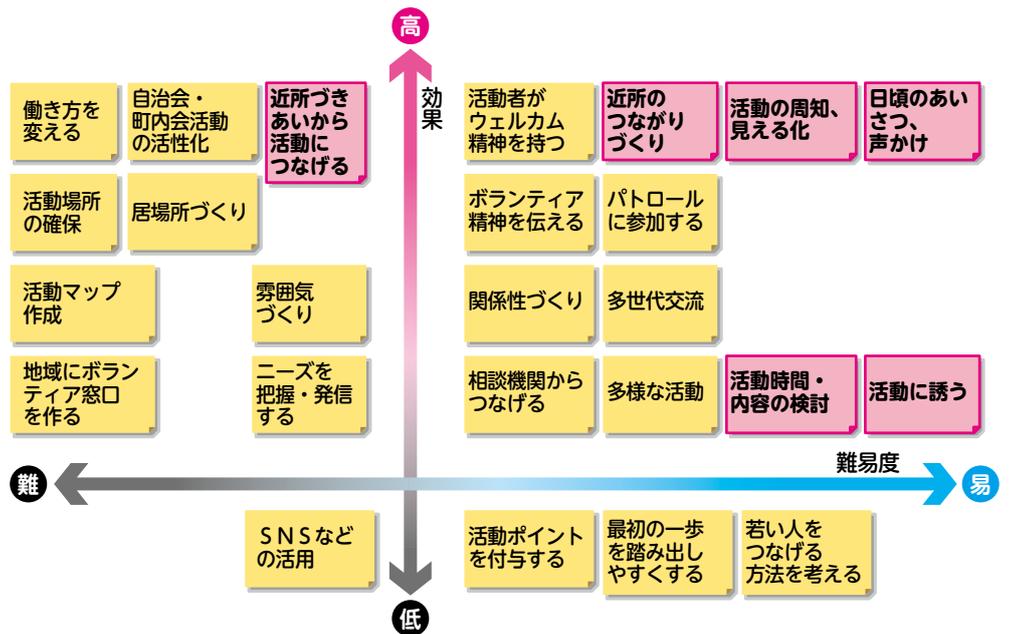
日頃のあいさつ、活動の周知を通して 活動の担い手を増やす！

2018年度は、町田第3高齢者支援センターと共催しました。グループごとの話し合いは、町トレ※参加者に行った、地域の担い手の希望に関するアンケートを参考にしながら、活発に行われました。

参加者アンケートでは、日常の中での何気ない挨拶や活動について一層のPRが必要という意見が多く出ました。

※町トレ（町田を元気にするトレーニング）とは、お住まいの地域で定期的・継続的に介護予防に取り組むための町田市オリジナルのトレーニングです。

支え合い活動に参加したい人たちを、活動につなげるためにできること



隣近所とのつながりと支え合いを進めていくために、「近所のつながりづくり」「日頃のあいさつ、声かけ」などつながりづくりに関連した意見が出ています。参加したい人を活動につなげていくためには、「活動の周知、見える化」では情報発信・情報提供、「活動に誘う」では知人から活動参加への声掛け、楽しいイベントの開催などが挙げられました。

今後の方向性と具体的取組

地域で
できそうな
こと

方向性

具体的
取組

- 日頃のあいさつや声かけ、活動参加への呼びかけなどから、近所のつながりづくり

- 地域における見守り活動の推進
- 活動に参加したい人を活動につなげていくためのしくみづくり



グループごとの話し合いの様子

- 子ども110番の家同士の横のつながりに向け、小規模での情報交換会の開催
- ニーズを活動につなげる
- マンパワー・推進員を設置する

「お互いさま」を 合言葉に 地域の困りごとと解決

私たちの活動は、2010年発足以来、地域の困りごとをアンケートや地域懇談会で聞き取り、解決策を協議しながら出来ることから、ボランティアの方々とともに地域で自分らしく暮らすために「お互いさま」を合言葉にゆっくりではありますが、活動を広げています。

重点活動の日常生活支援訪問活動（玉ちゃんサービス）は自立支援で柔軟な対応で好評です。町田第五小学校6年生の協力員体験実習や、玉川大学の学生の協力員登録など地域に広がり、隣近所同士子どもから大人まで、多世代にわたって支え合いにつながっています。

自主財源部門では助成金への応募や、地域でのバザーを「四季の市」と称し、地区社協のPRとカンパ活動を展開しています。「街かど・何でも相談室」の再スタートに向け、準備会の計画中です。家庭内の食のロスを減らすために、フードドライブも開始しています。

●玉川学園地区社会福祉協議会

活動場所 町田市玉川学園7-12-26
(フリースペースなごやさんち1F)

連絡先 TEL/FAX : 042-810-2062



「冬の市」商店会会場



玉ちゃんサービス説明会

お知らせ

昨年、日常生活支援訪問サービス・玉ちゃんサービスの活動を紹介した動画が完成しました。動画は地区社協ホームページから見ることができます。地域の支え合い活動を歌と映像で素敵に表現しています。

ぜひご覧ください！

HP : <http://mtg-syakyou.blogspot.com>

子どもをまん中にした まちづくり

ころころ児童館では、玉川学園地域の子ども110番の家と子ども達をつなげるハロウィンイベントを実施しています。子ども達が仮装して、子ども110番の家を訪ね、トリックオアトリートを合言葉に顔見知りになります。きっかけは、不審者に会った子どもに「なぜ110番の家に飛び込まなかったの？」と聞いた時に「だって知らない人の家に入れない」と言われたことでした。現在では子ども110番の家めぐり（ころころ児童館主催）、商店会めぐり（商店会主催）、ご近所めぐり（仲良しグループ）の3種類のハロウィンがあり、玉川学園のまちをあげての行事になっています。

私達が目指しているのは、子どもをまん中にしたまちづくりです。もっとまち中の人顔見知りになり、隣近所とのつながりと支え合いが広がればいいなと思っています。

●ころころ児童館

活動場所 町田市玉川学園3-35-45

連絡先 TEL : 042-710-1475/FAX : 042-710-1476



「トリックオアトリート」
練習どおりに言えたかな



ハロウィンイベント
みんなでかわいく仮装しました



テーマ

地域のつながりから 住民同士の助け合い活動へ

2018年度の
懇談会で
話されたこと

地域の団体がつながりづくりを進め、
新しい助け合いの取組をつくる！

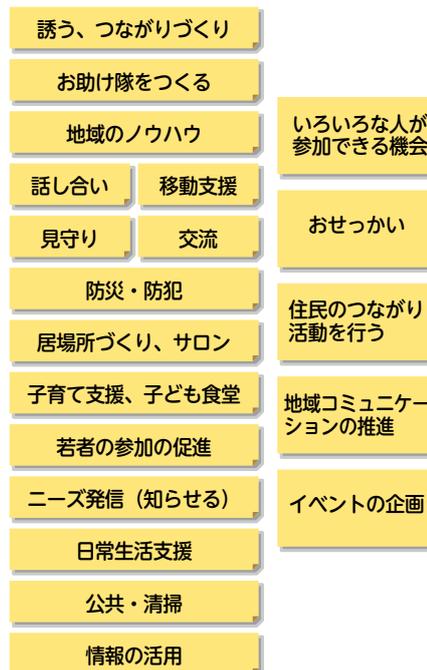
2018年度は、地域の助け合い活動を行っている団体の活動紹介を行いました。

活動紹介やグループごとの話し合いを通して、「新たに助け合い活動を立ち上げたい」という声が出てきています。



グループごとの話し合いの様子

地域でできる住民同士の助け合い活動



活動を実現するためにできること



懇談会では「地域のつながりから住民同士の助け合い活動へ」を実現するためには、多世代で参加できるものや、イベントの企画、地域とのコミュニケーションなど、「つながり」に関する意見が多く出ました。また、個人だけでなく団体同士のつながりを望む意見も出ました。

今後の方向性と具体的取組

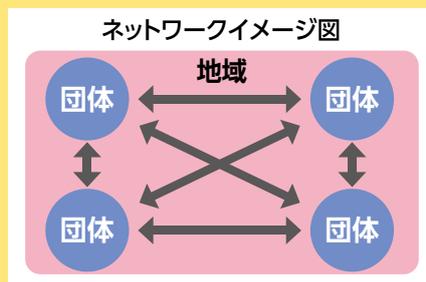
地域で
できそうな
こと

方向性

具体的
取組

- イベント開催や防災防犯活動、日頃からのコミュニケーションから地域のつながりを深める。そこから人材発掘や仲間作りにつなげる。

- 地域のネットワークの構築



- 地域で活動しているさまざまな団体間がつながり、互いに協力しあえる
- 地域のイベントを通して団体同士がつながる機会を作り、新たな取組を創出する

ちょっとした困りごと をお手伝いする 地域のサポーター

●成瀬お助けたい

活動場所 成瀬1～4丁目、成瀬台1,2丁目、西成瀬1～3丁目
連絡先 成瀬お助けたい代表 玉木徹 TEL：090-9200-9440



生活支援活動の様子

成瀬地区には生活支援のしくみがないため、その必要性から「成瀬お助けたい」の立ち上げを考えました。南第3高齢者支援センターに相談し協力いただきながら、賛同者を集め2018年4月から準備会を毎月開催し、2019年1月から本格稼働しました。

成瀬お助けたいは、高齢者や障がい者、子育て世帯などの、日常生活におけるちょっとした困りごとを、「成瀬お助けたい」のサポーターズが有償で生活支援のお手伝いをして、「支え合う、助けあう町づくり」を目指します。



準備会の様子

福祉施設の送迎車の 空き時間を利用して 移動を支援

●鞍掛台 買物・外出支援プロジェクト

活動場所 鞍掛台地区
連絡先 海老澤 清 TEL：042-728-4164
／080-1252-3441



プロジェクトチーム

鞍掛台地区は地形的に坂道も多く交通空白地帯のため、高齢者は今まで通りの生活が難しくなっている方が多く、買物や外出の機会が減少しているのが現状です。この対策として、南第3高齢者支援センターが中心になり、近隣の福祉施設事業者4社を含む「鞍掛台買物・外出支援プロジェクト」を2018年1月に発足し、買物や外出に困っている方を福祉施設の送迎車の空き時間を利用して移動支援を行う、地域の団体のつながりを活かした取組です。現在、2019年9月からの本稼働に向けて、3月から試行運行が開始する予定です。



送迎車デモンストレーション開催の様子

高ヶ坂・成瀬地区での 地域のネットワーク化 の動き

2019年3月に高ヶ坂・成瀬地区で地区協議会が立ち上がりました。地区協議会は町内会・自治会、民生委員児童委員協議会、青少年健全育成地区委員会をはじめ、地域で活動している団体と連携し、事業を実施する予定です。今後の高ヶ坂・成瀬地区での地域のネットワークが期待されます。



テーマ 安心安全のまちづくりに向けた
住民同士のつながりづくり
～防災をきっかけとしたつながりづくり～

2018年度の
懇談会で
話されたこと

**災害時のために
日頃からのつながりづくりを行う**

2018年度は、地域のつながりづくりを考えるにあたって、災害や防災の視点から話し合いを行いました。

また、懇談会終了後の参加者アンケートにおいても、日頃からのつながりづくり、地域とのつながりについて意見が寄せられました。

災害時のために普段から
自分でできること

- 近所とのコミュニケーション
- 配慮すべき人への支援
- 屋内の安全対策
- 避難への備え
- 備蓄、準備
- 情報交換・情報共有
- 防災に関する勉強

災害時のために普段から
地域でできること

- 顔の見える関係づくり
- 日頃のあいさつ、声かけ
- 日頃からの地域活動
- 情報共有
- 地域の安全確認
- 配慮すべき人への支援
- 連携体制づくり
- 防災訓練
- 交通機関等の確保
- 災害時に向けたマニュアル等の準備

災害時に地域で助け合っていくためには、隣近所との挨拶や町内会・自治会の参加といった日頃からのつながりづくりが大切であるとの意見が多く出ました。それと同時に、災害防災に関する情報共有、いざという時のマニュアル等の準備などの備えの必要性の意見もたくさんいただきました。

今後の方向性と具体的取組

地域で
できそうな
こと

方向性

具体的
取組

- 日頃からのあいさつや町内会・自治会、行事に参加しながらのつながりづくり
- 地域で防災訓練を実施し防災意識を高める

- 地域資源の確認を行い、みんな
で情報共有を行う

- できるところから防災防犯な
どのマップづくりに取り組む



発表の様子



グループごとの話し合いの様子

町田第一地区の防災・防犯の取組

地域の特徴と課題

助け合える 地域づくりが 課題

町田第一地区は、新宿や横浜などへも近く交通の便が良いところ
です。多くの商店や大型商業施設が立ち並び繁華街と、戸建て住宅
や大型マンションが混在する地域となっています。朝夕は多くの通
勤・通学客で、日中は買い物客で大変にぎわっています。

多くの人が訪れ活気にあふれる一方で、大規模災害発生時には多
くの帰宅困難者が予想されます。また、交通量が多い町田街道が地
区内を縦に貫いており、交通事故をどう防ぐか、中心市街地を抱え
るなか治安をどう維持していくか、地区の課題となっています。安
心・安全のまちづくりを地域でどのように進めていくかが求められ
ています。

取り組んでいること

地域全体での 防災意識向上

町田第一地区では、防災・防犯に関する様々な取組が行われてい
ます。2018年11月4日に原町田三丁目町内会と原町田四丁目町内
会と合同防災訓練を実施しました。町内会を越えて近隣住民の方々
と一緒に訓練することにより、災害時、地域全体での防災意識の向
上を目的として取り組みました。

また、2019年2月17日には、原町田大通りで、『大規模テロ対
策訓練』が実施されました。2020年東京オリンピック・パラリン
ピック競技大会でのテロ対策として、消防と警察が主催で実施しま
したが、町田第一地区町内会・自治会連合会も協力して訓練に参加
しました。

原町田地区協議会では地域団体、地域住民、学校・PTA等と連携
しながら、子どもが安全に登下校できるよう子どもの見守りを行っ
ており、防犯にも力を入れています。

原町田大通りと原町田中央通り交差点前にある民間交番『セーフ
ティボックスサルビア』では、防犯パトロールや、周辺の道案内な
どをとおして、中心商店街の治安維持に努めています。

このように町田第一地区では、防災防犯に関してさまざまな取組を
実施しています。



合同防災訓練の様子
～発災を意識した訓練を行いました～



合同防災訓練の様子
～町内会を越え防災意識に向上に努めました～



地域でできる子育て支援について

【子育てサロンでのヒアリング結果】

地区別懇談会に先駆け、子育てサロンの参加者に「子育てで困っていること」をヒアリングしたところ、右記のような回答がありました。ヒアリングの結果は懇談会参加者に配布し、地域でできることを話し合っていました。

●子育てで困っていること

<p>子どもの遊び場が足りない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 交流の場がない。おじいちゃん、おばあちゃんと交流できると良い。 ● 鶴間公園以外に芝生のある広い公園が近くにない。 ● 子どもが遊ぶ場所が少ないと感じた。
<p>子どもを預けられる場が足りない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 急な用事の時に、子どもを見てくれる人がいると助かる。 ● 1人で用事を済ませないといけない時に、気軽に子どもを預けられる場所がない。 ● 小さい子どもを地域の人に預けるのには抵抗がある。
<p>子どもを守る環境づくりが必要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 不審者がいるのが怖い。 ● 近くの道路で死亡事故が起こっている。道の狭さに対する交通量の多さが気になる。
<p>子育て世代の親への支援が必要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 先輩ママさん達の子育ての経験談を聞けたり、自分の子育ての苦労話を聞いてくれたりする場所があると良い。 ● 家で子どもと2人きりだとつらい気持ちになる。気軽に外に出かけられると良い。

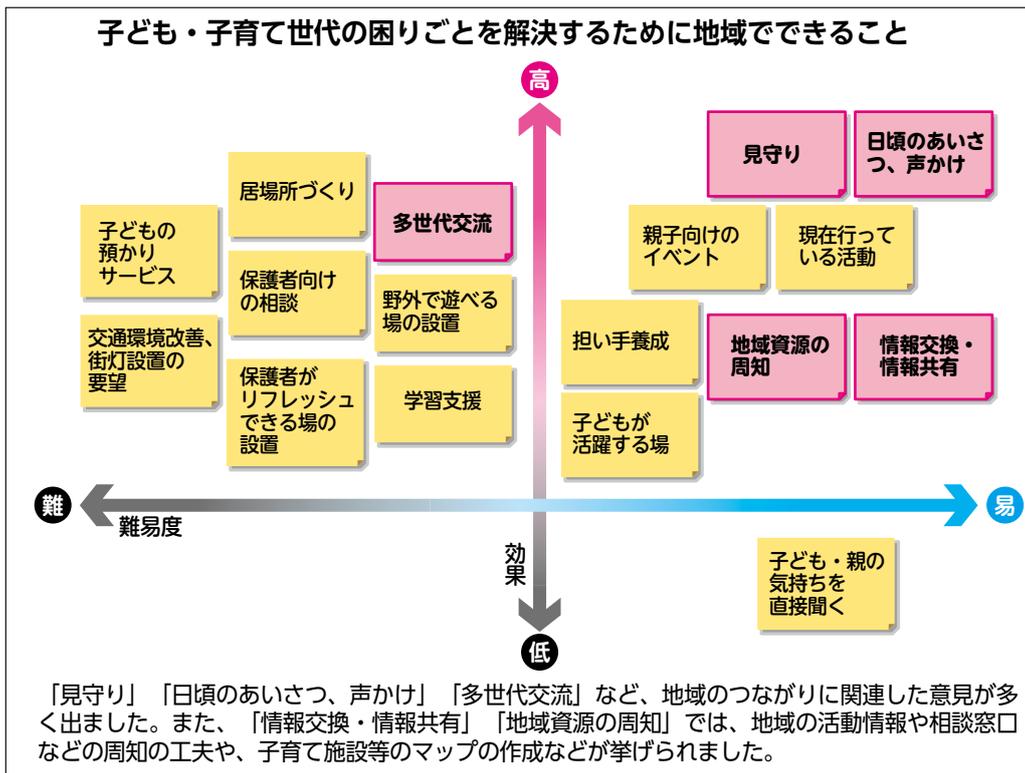
2018年度の懇談会で話されたこと

地域の多世代交流をとおして、子育て支援を進める！

2018年度は、上記のヒアリングの結果を参考に、話し合いが進められました。

懇談会終了後、参加者を対象に実施した「参加者アンケート」では、以下のような意見が出ていました。

- 地域のイベントを増やしたい
- 日々の活動の中で子どもと交流できる機会をもっとつくりたい、関わりたい





今後の方向性と具体的取組

地域で
できそうな
こと

方向性

具体的
取組

- 親子向けイベントや多世代が交流できるイベント
- 日頃のあいさつや声かけ
- 地域資源の周知や情報共有

- 多世代が関わる子育て支援の推進

- 地域の団体と連携しながら、「地域情報誌の作成」「地域資源の周知」「情報交換・情報共有」「多世代交流」を進めていく



話し合いの結果 模造紙



グループごとの話し合いの様子

こんな活動
しています

C A S E S T U D Y

2018年度の懇談会で
発表していただきました。

子どもも大人も楽しめる 多彩なイベントで つながるきっかけづくり

- まちだ南地域魅力発見プロジェクト実行委員会

活動場所 まちだ南地域

連絡先 Mail : machidanominami.373@gmail.com

『地域のつながりがもっと欲しい』『魅力的な街づくりに貢献したい』という想いのもと実行委員会を立ち上げました。町田の南地域に昔から住む地元住民と近年移り住んできた新しい住民がつながるきっかけを作り、地域住民同士が交流を深め「この街大好き」な心を育てるとともに、市内外から訪れる人に対して南地域の魅力を伝え地域の活性化を目指します。

町田市が実施するまちだ^{まる}ごと大作戦へエントリーし、2018年8月に町田市チャレンジ事業の認定が下りました。これまで、子連れで楽しめる映画上映会の開催や、乳幼児小学生が楽しめるハロウィンまちあるきイベント、地元にある素敵なお店をまわる、まちあるきイベントを実施しました。2019年も地域とのつながりや新しくつながるきっかけを作りながら、地域密着通信を発行し、南地域の魅力を伝えていきたいと思います。



魅力発見プロジェクトのメンバー



ポカポカ陽気の中、まちあるきを実施しました。

地区別懇談会で多くの方の意見を伺いました！



地域資源・活動の
マップを作成しよう



災害時に向けて
日頃から顔の見える
関係づくりをしよう



多世代が自然に
集える場づくりを
しよう



SNSを活用して
地域活動情報を発信
しよう



シニアと子どもの
交流イベントを
実施しよう



様々な活動団体が
つながる場を
つくろう



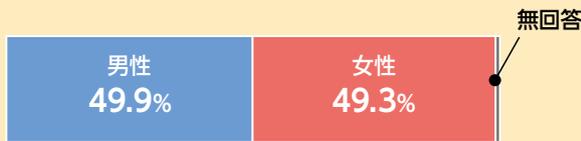
地域人材BANK
を作ろう



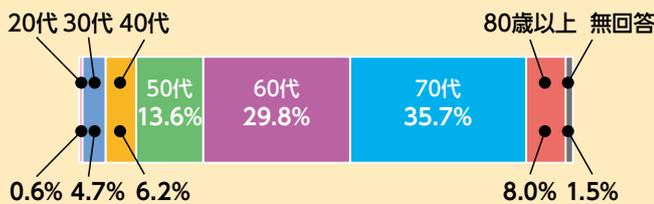
地区別懇談会の参加者アンケート結果

参加者アンケートには、339人の方がご回答くださいました。

●性別



●年代



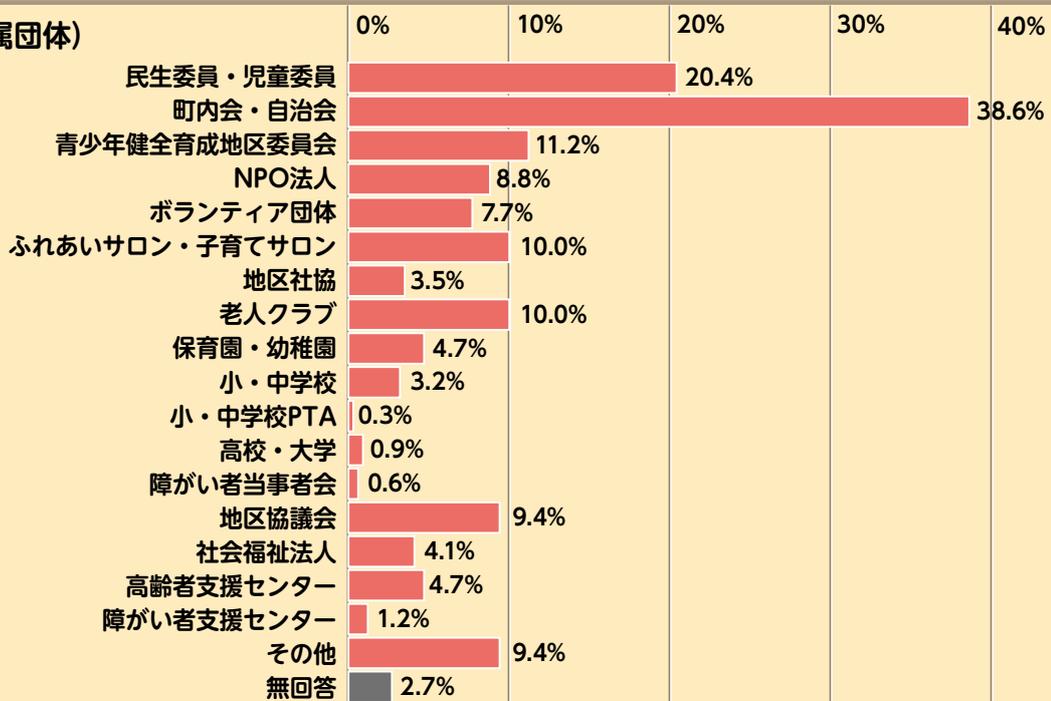
●満足度



●今後の参加意向



●地域活動(所属団体)



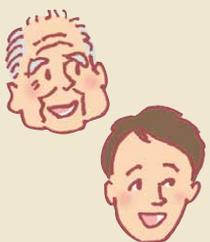
自由回答もたくさんいただきました!



地域のことを久しぶりに真剣に考える機会となった

子育て世代の生の声がわかり、それに応えていきたいと思いました

人とのつながりができました



若い世代も含めいろいろな方の意見を聞くことができ、今後に活かせると思う

地域活動の内容や重要性を無関心な人も含め広く伝える方法を考えたい

地域の特性・分からなかった面が見えてきた



みんなであつて



町田市社会福祉協議会
イメージキャラクター
「あいちゃん」

第3次町田市地域福祉計画
町田市社会福祉協議会 第四次地域福祉活動計画
地区活動計画 **2018年度版**

発行 2019年3月
町田市地域福祉部福祉総務課
〒194-8520 東京都町田市森野2-2-22
TEL: 042-724-2133 (直通) FAX: 050-3101-0928